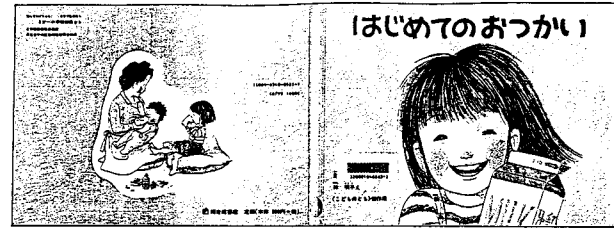


子どもたちといっしょに

筒井 頼子 さく
林 明子 え
(福音館書店)

「はじめてのおつかい」



小さい頃、「おつかい、おねがいね」と言われ、近くのお店まで一人で行った時のことが思い出されます。

すぐ横を通る自転車にびっくりしたり、周りがすごく大きく見えて、いつも見なれたはずの近所が一人きりだと急に心細くなったり、子どもの目線で描かれたこの本はすごくリアルで、誰もが経験しそうな日常的な題材に共感があります。

「可愛い子には括弧をさせよ」と昔から言われますが、いろんな経験をして子どもたちは大きくなっていきます。本を読む事も、読むという事でしかありませんが、読んでいる子は自分がその物語の主人公になりきって読んでいくはず。そして、本の中でたくさんの経験をしているのです。



第56回読書会 「あゝころはフリードリヒがいた」 リヒター 作
上田真而子 訳
日時：6月19日(日) 1:30~ (若波書店)
場所：白根学習館 ルーム2



著者のリヒターは実際にこの当時を生きて、戦争で片腕を失ったと聞きました。戦争は実際に起きた事ですし、私たちはこの事実から目を背けてはいけません。

6月の行事 ブックバス

1 (水)	絵本のじかん 3:00~	新飯田小 (2:35~3:20)	16 (木)	白根中 (2:55~3:35)
2 (木)		菅根小 (3:30~4:30)	17 (金)	左瀬地C (4:00~4:40)
3 (金)		白根中 (2:55~3:35)	18 (土)	白根小 (5:00~5:45)
4 (土)	おはなし会 3:00~	白根小 (4:00~5:15)	19 (日)	白井中 (2:55~3:35)
8 (水)	第26回あひだのあそび 絵本のじかん 3:00~	大通地C (4:30~5:00)	22 (水)	白井小 (4:00~5:15)
9 (木)		根岸農公 (5:30~6:00)	23 (木)	大通小 (4:00~5:30)
10 (金)		大鷲小 (2:30~2:55)	24 (金)	白根小 (3:00~3:50)
11 (土)	おはなしがご例会 10:00~	菅根小 (3:10~3:50)	25 (土)	小林小 (4:30~5:30)
15 (水)	絵本のじかん 3:00~	白根北中 (3:00~3:40)	29 (水)	新飯田農公 (4:30~5:00)
		大通小 (4:00~5:30)		戸石小 (5:30~6:00)
		白根小 (3:00~3:50)		新飯田川 (2:35~3:20)
		小林小 (4:30~5:30)		菅根小 (3:30~4:30)
		おはなしがご例会 10:00~		
		おはなし会 3:00~		

しろね図書館だより

発行 新潟市立白根図書館 平成17年6月1日

No. 61

ご利用ありがとうございます。白根図書館は新館開館5周年を迎えました。みなさまのご利用に感謝し、これからもどうぞ、よろしくお願い致します。

6月、白根は一年の中で一番にぎやかになります。江戸時代から続いている伝統行事、白根味方大風合戦が今年も6月2日(木)から5日間、中ノ川を挟んで行われます。川の両岸から24壘の大風を揚げ、空中で絡ませ川に落とし、相手の綱が切れるまで引っぱり合うこの勇壮な合戦は世界でも類を見ない行事です。

今日いっぱい、図書館入り口脇にある展示スペースには、風の作り方や絵柄などの本も多数展示されており、もちろん借りることができます。どうぞご利用ください。

5月の
来館者 ----- 14,025人
貸出冊数 ----- 15,026冊
予約件数 ----- 186件

ブックバス利用者 ----- 683人
ブックバス貸出冊数 ----- 1,497冊

リクエスト情報 (しばらくお待ち下さい)

1位・ハリポッターと不死鳥の騎士団 (7名)
2位・世界の中心で、愛をさけぶ (5名)
3位・日暮らし上下 (3名)
4位・セブンスター-6 電車男 東京タワー 半島を出よ (2名) 他

絵本のじかんとおはなし会
毎週水曜日 3:00から「絵本のじかん」
=対象は、0,1,2歳児と保護者=
毎週土曜日 3:00から「おはなし会」
=対象は3~4歳児からおとな迄=
どちらも図書館の「おはなしのへや」で開催しています。子どもにとって、楽しい本は喜びであり希望となるでしょう。

しろね図書館友の会
=しろね図書館友の会=
新潟市立白根図書館の利用者が図書館を中心にして、文化的な活動をしたり、図書館の応援をしたりする会です。今年度も、より楽しく和気あいあいとやっています。入会してみたい方やお問い合わせは事務局担当の図書館まで。

～図書館員がおすすめするこの一冊～

『スカイラー通り19番地』

E. L. カニグズバーグ作(岩波書店)
(ティーン933カ)

舞台は1980年代のアメリカ。主人公は12歳の女の子マーガレット。夏休みに両親がペルーに行くので、一人残されたマーガレットは、サマーキャンプに参加した。ところが、ルームメイトからいじめを受け孤立していたところを、おじさんに救出され、残りの夏休みをおじさんの家で過ごすことになった。その家の住所が、この本の題名でもある、スカイラー通り19番地。

おじさん達の庭には、手作りの「塔」があって、それはおじさん達だけでなく、いろんな人の宝物だ。ところが、塔は歴史あるオールドタウンの景観を損ねるということで、撤去を命じられる。この塔を救うため、おじさん達のために、マーガレットは塔を愛するピーター、ロレッタ、ジェイク達の力を借りて行動を起こす。マーガレットの役割は、とにかく塔の取り壊しを阻止すること。自分が塔の所有者になったり、壊せないよう手錠で足と塔を固定して体を張ったり…。

ハンガリーから移民してきたおじさん達、キャンプのカプラン先生と用務員のジェイク、…。登場人物がユニークで魅力的。もし自分がこの本の中の登場人物だったら、この塔を意味あるものずばらしいものと考えたい。

芸術や美術に詳しいとか、勉強をしているというわけではないが、「アート」を見るのは好きだ。気に入った作品をじっと見ていると、何か心に訴えてくるものがある。作者の伝えたい事とか、その作品の意味がわからなくても、見ていて楽しい。そんな経験ありませんか？きっとおじさん達の塔も、ずっと見ていたくなるようなアートだと思う。たとえそれが、素人がガラクタで作った作品だとしても。

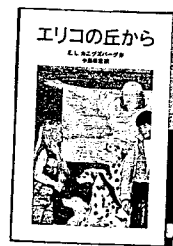
カニグズバーグの他の作品もいくつか読んだが、どれを読んでも時間を忘れ、一気に読んでしまう。おもしろくて、「その次は？どうなるの？」と知りたくて先へ先へと読んでしまうのだ。この本は、彼女の最新作。ぜひ読んでみてください。初めてカニグズバーグを読む方もきっとファンになって他の作品も読んでみたくなると思います。



〔司書 中川沙穂里〕

★しろね図書館所蔵カニグズバーグの本★

『クローディアの秘密』『魔女ジェニファとわたし』『ティーパーティーの謎』『エリコの丘から』
『ジョコンダ夫人の肖像』『800番への旅』カニグズバーグ作品集 1～9、別巻



第五十五回 読書会

平成十七年五月十五日(日)

午後一時三十分～三時三十分

参加者六名

『おやすみなさいトムさん』

ミシェル・マゴリアン 作

中村 妙子 訳

評論社

第二次大戦中のイギリス。ロンドンからの疎開児童となった少年ウィリアム(ウィル)が、疎開先の田舎で一人暮らしをする。老人トムと出会うことから始まる物語です。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

参加者の感想

◆読むのは大変ではなかったが、内容は重い話で、いろいろなテーマが入っていると思った。ウィルがトムさんのところに行けてよかった。戦争が無ければ行くことがなかったのだから、村に行けたからウィルも成長できた。

◆誕生日に村中からプレゼントが届いたり、村中で育てているというのがよかった。

◆時間というのは人間が成長するのに大事な時間が解決してくれるんだな、とあらためて思った。

◆図書館や本のことがいっぱいでできて、成長していくうえでそういうものは大切なんだなと思った。

◆実はまだ最後まで読んでいないのだが、子供が疎開ということに殺伐としたなから田舎に行き、トムさんをはじめ他の子供達と遊んだり、自然が力になって子供の成長の助けになると思った。自然はもちろん、人間的なつながりも大事。閉鎖的なお母さんから逃れて、友達やトムさんを通じて本来の人間らしさを得るという話になっていると思う。

◆ウィルと母親との関係にすごいものがある。ウィルが母親と駆で会ったときの会話が辛い。

◆トムさんの子供がいたらすごいいいお父さんだったのだろう。

◆すべてに時あり、という言葉の意味を考えたい。

◆子供たちがイチゴ摘みで仲良くなった場面。

面があるが、今の子供たちはゲームで遊んだりしていて難しいのでは、と思った。自分の子供の頃を思い出すと、外で走り回って仲良くなったり、いろんなことを勉強した。

◆子供の成長を書いた良い本は昔のものが多。時代が戦争ということでも書けたのか。何十年か後に今の時代のことを書いてもこんな風にはならないのかな、と思った。

◆今の世の中に欠けているものが多く書かれている。

◆自分の好きなもの、得意なものが一つでも見つかるといいな、と思った。

次回の読書会は

「あのころはフリードリヒがいた」

ハンス・ペーター・リヒター 作

上田 真而子 訳

六月十九日(日)

午後一時三十分～三時三十分

学習館二階ルーム2

本は、図書館カウンターで貸出しています。どなたでもお気軽にご参加ください。お待ちしております。